



2017年3月9日
三井化学アグロ株式会社

国立大学法人島根大学に寄附講座を開設

三井化学アグロ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：谷 和功、以下三井化学アグロ）は、国立大学法人島根大学生物資源科学部に寄附講座を開設いたします。尾添嘉久教授を特任教授としてお迎え、「三井化学アグロ・生物制御化学寄附講座」として本年4月より2年間を予定しております。

世界的な食糧需要の増加により、食糧増産に役立つ高性能で低環境負荷の農薬が求められています。このような農薬の開発には作用機構を解明したうえで分子設計を進めていくことが重要になります。本講座は「神経作用性殺虫剤の作用機構解明」、「イオンチャネル評価系の構築」を通して生命現象の基本原理の解明研究から殺虫剤創出及び食糧安定供給への実践的研究を支援するものです。

担当される尾添嘉久教授（島根大学生物資源科学部生命工学科）の専門分野は情報分子工学であり、主に昆虫・線虫の神経系に関する研究を精力的に進めています。三井化学アグロの殺虫剤の作用機構の解明をはじめ研究成果は150編の総説・論文として報告されており、新規殺虫剤の創製に寄与してきたものとして高く評価されています。2016年には、米国化学会(ACS)より農薬化学分野で国際的に極めて優れた功績のあった科学者に授与される International Award for Research in Agrochemicals を受賞しました。

当社は、安全・安心で安定的な食糧生産という社会課題の解決に貢献するため、高性能で環境負荷が小さい農薬の開発を続けてまいります。今回の寄附講座の開設により、殺虫剤の作用機構の研究をはじめとするライフサイエンス分野での研究の進展、更には世界の農業の維持・発展に寄与できるものと考えております。



尾添嘉久教授（写真中央・ACS授賞式）

以上